

青少年

塩尻市教育委員会
市民交流センター・生涯学習部
男女共同参画・若者サポート課

〔発行〕 塩尻市青少年補導センター（塩尻総合文化センター内） 電話 0263-52-0280（内線 3151） FAX.0263-54-2705



令和元年度塩尻市ジュニア・リーダー養成事業 柏茂会館にて

ジュニア・リーダー養成事業

市民交流センター・生涯学習部
男女共同参画・若者サポート課

宮川 慶悟

塩尻市では、平成29年度からジュニア・リーダー養成事業を実施しています。「ジュニア・リーダー」とは、地域の子ども会活動等の振興を図るため、子ども会活動の支援や地域づくりに参画するボランティアのことをいいます。

この事業では、市内の小中学生を対象に養成講座を実施しており、他の学校の生徒との交流や地域との繋がりを通して、豊かな人間関係と思いやりの心を育み、将来の地域活動の担い手として活躍できる人材育成に取り組んでいます。

年6回の養成講座があり、自

然体験や合宿、地域のイベントに参加するための企画立案、準備、運営等、子ども達が自ら考え体験することで、考える力や豊かな人間性を育むことができますように努めています。

養成講座を修了した子ども達は、ジュニア・リーダーとして、事務局のお手伝いや後輩への指導にあたっていますが、今後はジュニア・リーダー独自の研修会を企画していき、子ども達のさらなるステップアップが図れるように、事務局とリーダー達の間で積極的に意見交換を行い、子ども会活動のさらなる発展に努めていきます。



出会の瞬間に 何かがある

11月23日(土)第33回全国短歌フォーラムin塩尻「学生の部」がレザンホールで開催されました。全国の小学校、中学校、高等学校二百九校より一万一千五百首の短歌が寄せられました。

レザン大ホールのステージでは、吉田小5年生と塩尻東小短歌クラブの皆さんが短歌にまつわるステージ発表をしました。両校とも堂々と発表し、ドキドキだった子どもたちも、終わってみれば、貴重な体験の場となっていたのではないのでしょうか。最優秀賞一作品を紹介いたします。

**さか上がり 冬より鉄が
あつたかい なんだかできそう
そんな気がする**

(吉田小6年 真島菜々子さん)

作者真島さんは、体育の授業か休み時間にクラスの友人と一緒に鉄棒がある吉田小の校庭に行ったのでしょうか。そこで、冬のとぎ、ずっとヒンヤリ冷たかった鉄棒が、触ってみたら春の日差しを浴び、温かくなっていることに驚き

ました。最上級生の6年生になった喜び、新しい委員会、席替え、新しい先生や友との出会いなど、ワクワクする季節を感じ、伸びようとしている作者の気持ちをこの短歌から感じ取りました。

私は、担任の頃の思い出が蘇ってきました。

4月登校初日。子ども達は希望に胸膨らませ、登校してきます。「今年こそ、頑張ろう！」以前勤務していたI小学校、子ども達との出会いの出来事です。私が受け持つクラスには、学年一番の暴れん坊少年U君がいました。3年生のとき、友に手を出し、クラスメイトの家に何回も頭を下げに行つたU君のご両親でした。

4年生はクラス替え。体育館での始業式担任発表の後、教室に戻りました。紐で結えられた教科書を配ろうとしていたときです。

「先生、ハサミが今ないんだ。誰かハサミ持っている？」と聞くと、何人もの子が手を挙げてくれました。私の目の前に座っていたU君が「はい。赤羽先生。これ使つていいよ。」と刃先を自分を持って、そっと差し出してくれました。

「みんな、U君はこうやって、ハサミ貸してくれたんだ。先生、2倍嬉しかったな。」小さな出来

事かもしれないませんが、私の感じた気持ちを通して出会ったクラスの子ども達に伝えました。家庭訪問でもU君の初日の出来事をお伝えしました。U君は4年生の一年間、ずっと初日の目標を守ろうと必死に頑張り続けることができました。

出会の瞬間には何かがきつとあると私は信じております。

いつでも誰にでも笑顔で接していきたいものです。

子ども達の

成長と安全

地域皆で支えよう

塩尻市青少年補導委員協議会会長

薄田 利秋

ここ数年の補導活動を通して実

体験した二つの特徴的なことを挙げます。一つは、既に指摘されていますように、外で子ども達を見かけなくなったことです。この背景には、外に遊ぶ場所がない、遊ぶ友達がいらない、宿題、ゲームなどに時間を取られる、など様々あるでしょう。もう一つは列車補導中(現在取止め)、ほとんどの乗客がスマホに熱中し、会話や読書派はごくまれです。これも平成二

十年頃に初登場したスマホに代表される、ネット時代を反映した現象と言えるでしょう。電車内に限らず話を楽しむ人、本を読む人が少なくなったこともその反映でしょうか。

今、子ども達を取り巻く環境はご存知のように大きく変化しています。とりわけスマホなどデジタル機器が子ども達にも広がっていること、さらに、このようなネット機器を介してのコミュニケーションが中心となり、その上、核家族化、職場のIT化、地域の高齢化などの要因も重なり、そのためか、顔を合せての会話、ふれあい、繋がりが、連帯感が減少していると思います。

加えて、交通や道路環境、登下校の通学路などにおけるリスクも増えており、安全への管理も大きな課題です。

このような環境変化の中、次世代を担う子ども達を地域社会が学校と協力して育てようという施策が各地区で展開されています。青少年補導事業、コミュニティスクール事業もその変化に乗った活動に取り組んでいます。保護者は仕事で忙しく、学校の先生方も教育等に多忙な日々を送っています。従って、シニア世代など地域のサポートがますます必要となっ

ています。

例えば、補導活動の一環として、学校でのあいさつ運動や下校時の見守り活動を行っています。笑顔であいさつ、声掛けなど通して、子ども達との交流も生まれます。地域のいろいろな人たちとのふれあい、学びあい、つながりあい、話す機会は子ども達の成長にとって、とても大切なことだと思います。

現在、私はコミュニティスクール(広陵中学校および広丘小学校)活動にも携わっています。

広陵中学校においても広丘小学校においても地域の人たちからなる学校支援ボランティアが、それぞれの技能、技術を生かし、読み聞かせ、ものづくり、地域の歴史伝承など多彩な分野で子ども達の成長を支えています。また、ゴミ拾い登校から、更に落ち葉かきなど、地域貢献型の環境美化活動が広がっています。地域とともにある学校。その目指すところは未来を担う子ども達のため、地域みんな、子ども達の成長や安全を協力して支えてゆくことにあります。そのためにも、今後、さらに関係者や関係団体とのネットワーク、協働が望まれます。皆様のご理解、ご協力をよろしく願います。

塩尻市の子どもの スマホ等の利用実態

塩尻市教育委員会は、昨年5月に市内の小中学生を対象に電子メディア機器に関するアンケート調査を実施しました。小学3年生～6年生2147人、中学1年生～3年生1627人から回答を得ました。その結果の概略を教育委員会による「調査結果考察」とともに御紹介します。

①自分で使えるスマホは？

	専用	家族と共有	ない
小3	65	162	270
4	86	160	237
5	118	198	203
6	162	233	200
中1	200	160	190
2	265	148	153
3	265	118	119

小3で45%、小6で66%、中3では76%がスマホを使える環境にあります。
専用端末のうち、保護者のお下がりを使う場合には、フィルタリングの未設定が多いことがあり、特に注意が必要です。

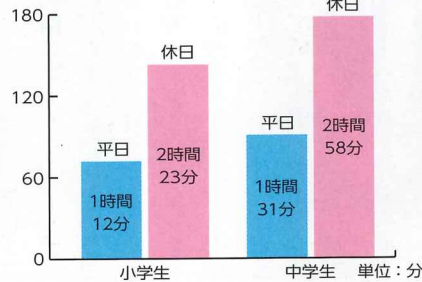
②スマホ、パソコンでよく使うのは？

	SNS	動画	音楽	ゲーム	買物	調べる	勉強	電話
小3	41	254	61	201	18	99	81	43
4	32	283	83	237	12	166	119	55
5	65	337	108	259	23	213	133	101
6	93	414	144	325	24	300	198	118
中1	167	415	227	290	38	309	193	138
2	264	442	260	317	60	357	222	174
3	287	404	296	286	57	338	225	143

小学生、中学生ともに動画の視聴が最も多く、動画投稿も含まれると思われます。小学生の場合は、次いでゲームが多く、中学生になると、SNSと音楽の利用が多くなり、3年生ではゲームを上回ります。学年が上

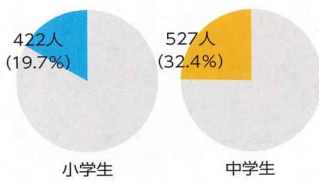
③使用時間

小・中学生の平日、休日にしめるスマホの平均使用時間

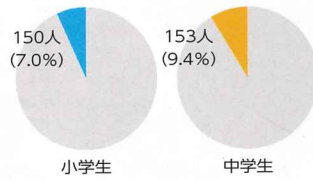


がるにつれて「調べる」「勉強」の占める割合が増え、中学生ではどの学年でも「調べる」が2番目。有効な使い方も学んでいると言えます。

休日4時間以上



平日4時間以上



④スマホ等を使って生活は変わった？

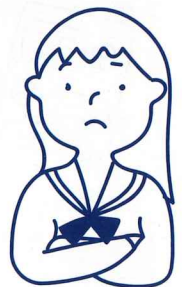
	長時間使用	勉強時間短	睡眠時間短	家族時間短	かくれて	投稿	SNS	課金	出会い
小3	103	68	56	60	44	13	11	24	13
4	143	50	42	49	29	14	9	57	6
5	161	65	41	62	36	12	15	87	7
6	185	84	86	115	53	27	23	110	7
中1	176	102	92	80	51	26	73	84	5
2	229	162	132	91	83	46	100	96	11
3	213	208	173	71	79	60	115	83	12

使用時間については、平日の使用を1時間以内に自分でコントロールできる子は学力が高いという研究データも公開されています。

学年が上がるにつれ、使用時間の増加と学習時間の減少を自覚する傾向にあります。

ネットゲーム等で、小学校高学年から課金をしている子が増えている実態がうかがえます。

「ネットで知り合った人と実際にあったことがある」と答えた児童・生徒がいますが、相手が大人か子どもかは不明です。





⑤ 困ったこと、心配なこと

	ラインメール	SNS会話	ネットトラブル	他人とのやりとり	お金(課金)	不審メール	アダルト等
小3	23	11	3	7	46	9	18
4	16	6	7	10	65	6	21
5	18	9	8	16	77	14	33
6	33	7	13	17	64	23	55
中1	67	18	19	22	45	26	29
2	112	42	29	20	71	56	51
3	103	37	23	19	53	62	44

小学生で課金が発生しています。ゲーム等での課金の工面に強く不安を感じていると思われます。

高学年になるとアダルト広告を目にするなど不安がやや強くなります。

中学生は、ラインやメールなどのツール使用に伴う不安を感じたり、トラブルをすでに経験していると思われます。

⑦ どのくらい夢中になっているか？

	やめられない	やめにくい	他にやること がある	興味なし
小3	67	151	144	33
4	41	193	153	33
5	39	216	168	22
6	50	284	194	18
中1	42	250	178	12
2	38	260	199	10
3	34	260	148	10

生活リズムの乱れを自覚し、

心身の健康、特にブルーライト障害や視力の低下、睡眠時間の減少、ひいては学力低下などを心配している子が多いにもかかわらず、使用をやめられない、やめにくいと感じる子どもが半数以上に上っています。

⑥ 健康等で心配なこと

	睡眠時間	学力	視力	ブルーライト	友人関係	運動不足
小3	64	50	93	71	30	51
4	44	63	133	85	21	67
5	52	72	150	98	30	85
6	84	119	229	162	33	100
中1	78	144	188	153	23	88
2	101	226	202	181	34	58
3	99	198	167	160	10	50

このアンケート調査を担当された市教育委員会の高橋和幸先生は、昨年9月の青少年健全育成3団体研修会での講演で次のように述べられています。

1983年にファミコンが出た時から、子どもが外遊びから家で一人で遊び始めました。1995年頃からパソコン、インターネットが一般家庭に普及し、オンラインゲームの時代となって、その傾向が加速しました。

さらにこれからは、「5G」という超大型、超高速通信システムの時代に入り、子ども達の生活にどのような影響が出るか危惧されます。今よりもネットによる犯罪に会う機会も増え、ネット依存やゲーム依存も大きくなると予想されます。子どもにとっては、人間関係を築く時期を逸し、コミュニケーション能力、人への思いやりの心が育まれるか心配です。

ゲームの時間が長いほど、学業や仕事への悪影響や、体や心

の問題が起きやすい傾向にあり、そうなっても、ゲームをやめられない状態が、世界的に「ゲーム障害」という依存症に認定されました。(2019年5月、世界保健機構WHO) WHOは、ゲーム障害について、人間の思いやりや心の動きをつかさどる脳の前頭葉に何らかの異常が生じている可能性を指摘しており、次の4つのことが12か月以上続くケースを依存症と認定するとしています。

- ① ゲームを続ける時間や頻度を制御できない。
- ② ゲームが他の生活上の関心事や日常行動に優先する。
- ③ 問題が起きてもゲームを続ける。又は、いつそこのめり込む。
- ④ ゲームにより、学業、仕事などに重大な支障がでている。

学校の教育現場では、情報メディア教育、モラル教育などを通じて、ネットの悪影響から子どもを守ることはもとより、子ども達が「ゲーム障害」にならないように導いていくことが重

要な課題となってきています。一方、家庭でも、大人は子どもに夜10時までの約束をどうしたら守ることができるかを考えさせ、気づかせる努力が必要です。また、それ以前の問題として、大人もルールを守ることが大事です。(子どもは親を見ています)

そして、大人も子どもも、スマホ、ネットは本当に生活や学業、仕事に役立つような抑制的な使い方をすること、インターネットは不可欠ではありませんが、同時にアナログでも生きていけるたくましい子どもを育てていくことが大人の使命です。

